

西穂高から奥穂高 秋の縦走

〈日程〉

2017年9月30日(土)から10月2日(月)

〈メンバー〉

岩川

〈装備〉

テン泊セット+一眼レフセット+ボルダーセット

〈コースタイム〉

1日目

沢渡駐車場 4:40→帝国ホテル 5:30→西穂山荘 7:30…仮眠…西穂山荘 9:30→西穂独標 10:30…休憩…西穂独標 12:00→西穂山荘 12:40…お昼寝…夕食…就寝 18:00

2日目

西穂山荘 3:30→西穂高岳 5:30→天狗のCOL 7:40→ジャンダルム 9:00→奥穂高岳 10:15→穂高岳山荘 10:40→涸沢小屋 12:20…涸沢ボルダー…紅葉狩り…就寝 20:00

3日目

涸沢 5:00→横尾 6:30→徳澤園 7:20→上高地バスターミナル 8:50→沢渡駐車場 10:00

1日目

今回は、日程が紅葉シーズンと重なっているため、テン場は大混雑が予想されていた。10時に満杯というネット情報にビビった私は、沢渡からの始発バスに乗り込みテン場を奪取すべく急ぎ足で登りはじめた。西穂山荘に着くと問題のテン場はガラガラであった。早く来すぎて時間が余ってしまったので、とりあえず独標まで下見に行くことにした。天気は快晴で暖かく気持ちのいい稜線歩きになった。

しばらく撮影を楽しんだ後、きっと混んでいるだろうと思いながらテン場に戻る。しかし、相変わらずのガラガラ…その後は、お隣さんと雑談をして、しばし休憩。そして、お昼寝。1日目は昼寝ばかりになってしまった。まあ、のんびりできて良かった。2日目はよいよジャンダルム。

2日目

夜は、霜が凍るほど冷え込んだ。岩場の渋滞は避けたかったので、3時半に出発する。5時半に西穂に到着し日の出を迎える。ここで、ソロで来ている先行者に追いついた。どうやらその前にも2人組がいるらしい。みんな早起きだ。

ここから、西穂-奥穂の区間に入るので注意して足を進める。傾斜のある鎖場やリッジ歩きが続く。しかし、思っていたよりも岩はしっかりとしており、鎖なしでも問題なく進むことができる。クライムダウンがしっかりとできるのであればそれほど難しくはない。ただ、落ちれば止まらないのは間違いないので集中して通過すべきだと思う。

天狗のCOLまでは、すれ違う人も数人しかおらず、快適に進むことができた。ジャンダルムが見えてくると

7～8 人の人がその上に見える。3 年前？から行きたかったジャンダルムに立てると思うと胸が躍る。ぐいぐい登って行くと、3 人組が下りてきた。そして、すれ違う時に、ジャンダルムで骨折した人がいてすぐにヘリが来ると教えてくれた。ジャンダルムの登り口付近で滑落し足の骨を折ったようだ。少々ビビりながら歩いていくとジャンダルムが目の前に見えた。そして、遭難者も確認できた。仲間がいるようで安全は確保されていた。野次馬をしても仕方ないので、そのままジャンダルムに登る。ジャンダルムは意外に広く 15 人くらいの人が入った。噂の天使の看板もあった。登ってから、荷物を下に置いておけばよかったと気が付いた。

ジャンダルムを後にして、ロバの耳に差し掛かったころ救助のヘリが来た。あっという間に遭難者を回収し飛んで行った。ロバの耳から馬の背は少々気を遣う箇所があったがこちらも問題なく通過した。奥穂に着くと 20 人くらいの人々が写真待ちをしていた。写真はパスして早々に下り始める。今回は奥穂に泊まる予定だったが、最終日の天候が悪いため一気に涸沢まで向かった。涸沢にはお昼に到着した。

まずは、テントの受付を済ませ、大量のテントがひしめく中にテントを張る。その後、涸沢ボルダーなるもので小一時間遊ばせてもらった。クライミングシューズは持ってきていたが、流石に 9 時間近く歩いた後でヨレヨレである。そして、どれも抜けが悪い…思いがけず必死になってしまった。また、機会を見つけて登りに行こうと思う。

夜はテントの明かりが綺麗だった。私が泊まった日は 500 張程で前日の 1200 張の半分程だったようだ。1200 張はテント迷子になりそうだ…

3 日目

昼から雨のため、早々に下山を始める。上高地の手前で雨が降り始めるが、濡れるほどではなくひどくなる前にぎりぎり到着した。

今回の山行は非常に気持ち良かった。

やはり山はいい。

写真は、快晴の穂高と紅葉の涸沢等…







